

1 気象概況（7月前半：果樹研究所）

7月前半の平均気温は、1半旬が21.6℃で平年より0.2℃、2半旬が21.7℃で平年より0.7℃低く、3半旬が27.6℃で平年より4.5℃高く、この期間の降水量は21.5mmで平年の22%でした。

2 土壌の水分状況（7月15日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培なしほ場）は、深さ20cmが2.8、40cmが2.9、60cmが2.8となっており、乾燥状態となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（7月15日現在 暦日比較）

「あかつき」の縦径は61.9mmで平年比113%、側径が67.1mmで平年比118%、「ゆうぞら」の縦径は55.9mmで平年比114%、側径が53.0mmで平年比118%と各々平年より大きい状況です。

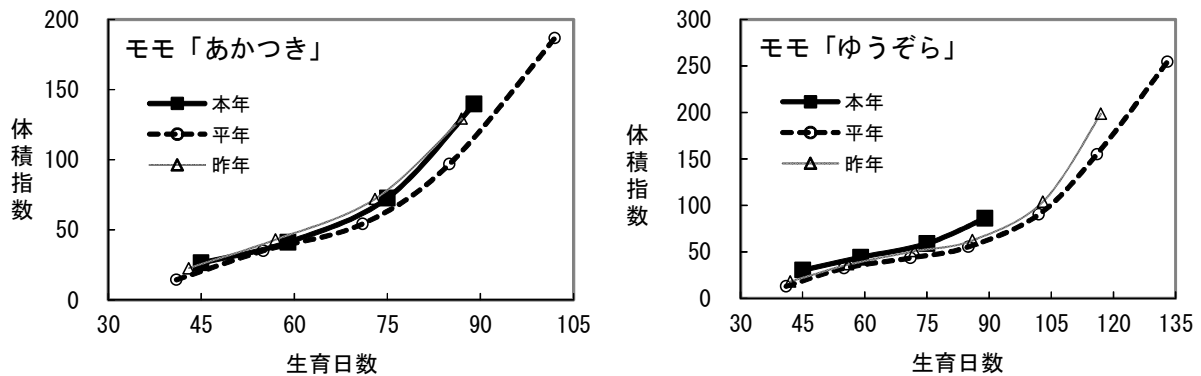


図1 ももの果実肥大（満開後日数比較）

イ 新梢生長（満開後80日 品種：あかつき）

新梢長は平年比83%と短く、展葉数は平年比118%と多い状況でした。また、葉色（SPAD値）は平年比108%と濃いものの、新梢停止は早い状況でした。

ウ 核障害の発生（満開後85日 品種：あかつき）

核頂部の亀裂の発生率は65%と平年より高く、縫合面の割裂の発生率は20%平年より少ない状況でした。

エ 収穫期予測（7月15日現在 品種：あかつき）

DVRモデルによる収穫期の予測では、収穫開始は7月24日頃、収穫盛りは7月28日頃で、平年より9日程度早まると予測されます。

オ 早生品種の収穫期

「ちよひめ」の収穫開始は6月29日、収穫盛りは7月2日で平年より6日早い状況でした。また、「日川白鳳」の収穫開始は7月6日、収穫盛りは7月9日で平年より11日早い状況でした。

表1 収穫予測（7月15日現在）

品 種	収穫開始日			収穫盛日		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	7/24	8/2	9日早い	7/28	8/6	9日早い

※ 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2012年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大 (7月15日現在 暦日比較)

「幸水」の縦径は47.8mmで平年比122%、横径が58.8mmで平年比126%、「豊水」の縦径は47.5mmで平年比119%、横径が53.1mmで平年比123%と各々平年より大きい状況です。

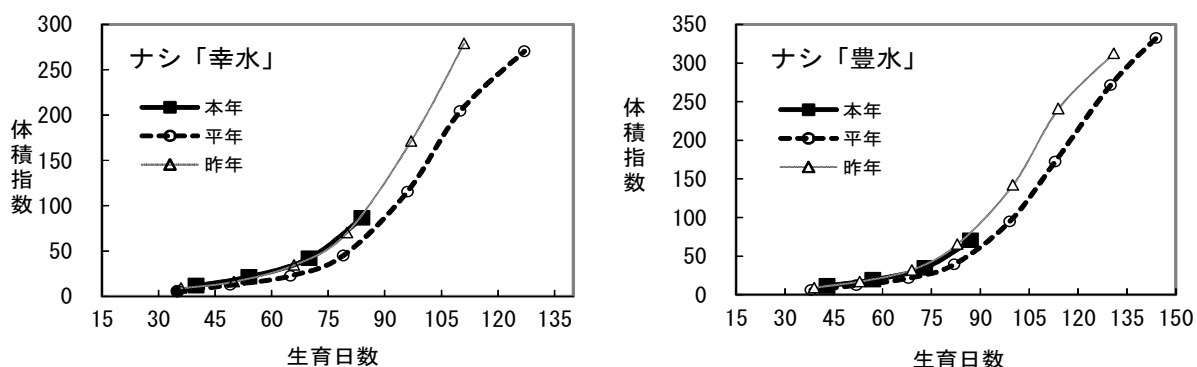


図2 なしの果実肥大 (満開後日数比較)

イ 新梢生長 (満開後70日 品種: 幸水)

予備枝新梢長は96.1cmで平年比88%と平年より短く、不定芽新梢長は94.9cmで平年比101%とほぼ平年並の状況でした。

ウ 裂果の発生 (品種: 幸水)

裂果の初発日は7月9日 (満開後78日) で平年より5日早い状況でした。

エ 収穫期予測 (7月15日現在 品種: 幸水)

DVRモデルによる収穫予測では、収穫盛期は8月25日頃 (満開後125日) で平年より8日程度早まると予測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大 (7月15日現在 暦日比較)

「つがる」の縦径は60.8mmで平年比106%、横径が70.8mmで平年比109%、「ふじ」の縦径は53.6mmで平年比104%、横径が60.2mmで平年比109%と各々平年より大きい状況です。

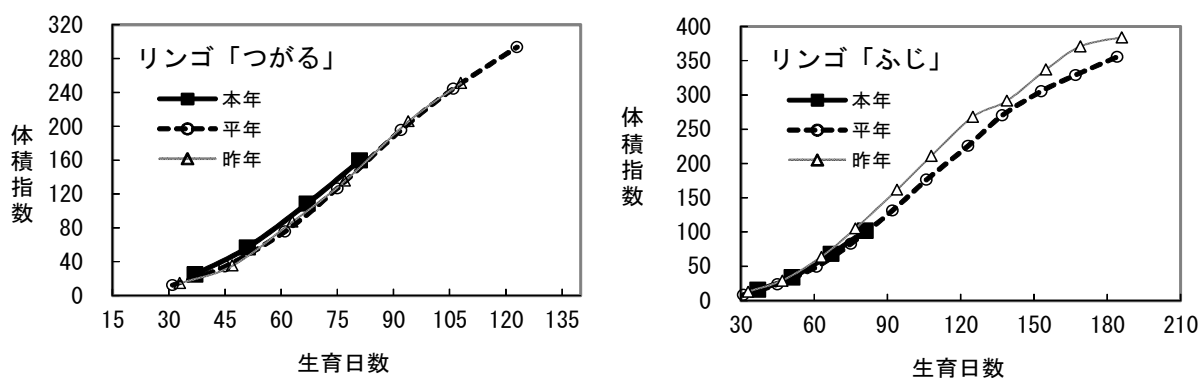


図3 りんごの果実肥大 (満開後日数比較)

イ 新梢生長 (品種: ふじ)

新梢伸長は満開後50日までにほぼ停止し、平年より早まりました。また、満開後80日の時点で、一部の樹に二次伸長がみられました。

(4) ぶどう

着色開始は、「巨峰 (有核栽培)」が7月14日で平年より10日早く、「あづましずく (短梢栽培)」が7月9日で平年より9日早い状況でした。

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成27年7月16日発表)

今後の気温の経過は、1週目（7月18日～7月24日）が高い確率が60%、2週目（7月25日～7月31日）も高い確率が50%、3～4週目（8月1日～8月14日）は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

4 栽培上の留意点

(1) 土壌の水管理

盛夏期の果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mmです。かん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安として、5～7日間隔で実施し、土壌の水管理を行いましょ。なお、保水性が劣る砂質土壌等では、1回のかん水量を少なくして、かん水の間隔を短くしましょ。

ただし、ももの収穫5～7日前頃のかん水は、糖度の低下等につながりやすいので、注意しましょ。

(2) も も

ア 早生品種の収穫

現在、早生品種の収穫期となっています。核障害により杯に障害を持つ果実は、成熟が早まる傾向がありますので、果肉の軟化には十分注意し、収穫が遅れないように注意しましょ。

イ 中生品種の収穫前管理と収穫

「あかつき」の収穫期は、平年より9日程度早まる見込みですので、収穫に向けて、夏期せん定、枝つり、支柱立て、反射シートの敷設等、管理作業は計画的に実施しましょ。

なお、核障害果（変形果、異常着色、縫合線の裂果など）等の発生が多い園では、修正摘果・樹上選果を丁寧に行い、品質の向上を図りましょ。

(3) な し

ア 新梢誘引

新梢誘引は受光体制の改善や防除効果の向上、結果枝の棚付け時の軽労・省力化のための重要な作業ですので、丁寧に実施しましょ。

また、「豊水」の新梢は湾曲したり下垂しやすいことから、誘引により発生方向等を整えましょ。

イ 修正摘果

現在、「幸水」は裂果期を迎えていますので、この時期の摘果は控えましょ。

裂果期が終了した後は、肥大不良果、果形不良果、障害果等を対象に丁寧に修正摘果を行い、品質の向上を図りましょ。

(4) りんご

ア 修正摘果

現在、果実肥大や変形の有無、障害果等の区別が付きやすい時期ですので、丁寧に修正摘果を行い、品質の向上を図りましょ。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大に伴い枝が下垂すると、樹冠内部や下部の日当たりが悪化し着色不良の原因となりますので、枝吊りと支柱立てを実施しましょう。

(5) ぶどう

ア 着果管理

ぶどうの着色は、果房中の数粒が飛び抜けて濃く着色するのが望ましい状態です。全体的にぼんやりと着色するような場合は、着房過多が原因と考えられますので、早急に着房数の見直しを行い、品質の向上を図りましょう。

イ 新梢管理

果実品質の向上と新梢の登熟促進のため、7月下旬～8月上旬頃を目安に伸長が停止していない新梢を対象に摘芯を実施しましょう。なお、摘芯は先端の生長点を軽く摘む程度とします。

ウ 水分管理

ベレーズン期頃は、1日当たりの水分消費量が多くなることから、根の活力を保つため、土壌水分を保持するよう心がけましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア ももせん孔細菌病

降水量が多いと二次感染による発病が増加するおそれがありますので、今後とも引き続き注意が必要です。

また、晩生種では、収穫前使用規制に十分注意し、7月20日頃または7月30日頃に本病を対象とした薬剤防除を実施しましょう。

イ もも灰星病、ホモプシス腐敗病

収穫間近の中～晩生種が同病の重点防除時期となります。薬剤の収穫前使用規制に十分注意し防除を徹底しましょう。

ウ なし黒星病

羅病部位は見つけ次第除去し、適切に処分するとともに薬剤による防除を徹底しましょう。

また、今後の降雨により、二次感染を繰り返すおそれがありますので、防除に当たっては、散布間隔が10日以上開かないよう心掛けるとともに、薬剤の散布量は10a当たり300リットル（スピードスプレーヤの場合）を遵守しましょう。

エ リンゴ輪紋病、炭疽病

輪紋病は高温多雨が長く続くと感染頻度が高くなります。また、炭疽病は梅雨期が重点防除期にあたりますので、これらに効果の高い薬剤を選択して防除を実施しましょう。

また、炭疽病の発生を抑制するため、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物を除去しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第4世代幼虫の防除適期は7月5～6半旬頃と推定されます。本種の発生には無防除のハナモモ園や放任園などの影響が考えられるため、無防除園の管理や放任園の伐採等を行いましょう。

イ モモノゴマダラノメイガ

第1世代成虫は7月4半旬頃から発生すると推察されます。被害の発生が予想されるモモ園では、中晩生種に対して晩生種を対象として7月下旬以降も防除を行いましょう。

ウ ナシヒメシクイ

第2世代成虫の発生盛期は7月4半旬頃と予想され、防除適期は7月5～6半旬頃と推定されます。本種は第3世代からなし果実への寄生が増加するため、例年なしの果実被害が多い地域では、近隣もも園の芯折れの発生状況に注意するとともに、第3世代幼虫以降の防除を徹底しましょう。

エ コガネムシ類

ドウガネブイブイやヒメコガネ等が活発に飛来する時刻は、日没後から約3時間（18時～21時頃）なので、誘殺灯を使用する場合はこの時間帯に点灯しましょう。

オ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行きましょう。

表2 主要鱗翅目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成27年7月15日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	7月21日	7月25日	7月17日	7月24日
平年並	7月22日	7月26日	7月18日	7月25日
2℃低い	7月23日	7月27日	7月18日	7月26日

注) 演算方法は三角法による。

起算日：モモハモグリガ 6月29日、ナシヒメシンクイ 6月14日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyouthou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>